

最先端リハビリ拠点 津の七栗記念病院に完成

藤田保健衛生大七栗記念病院（津市大鳥町）で二十日、先進リハビリテーション棟の完成記念式典と内覧会があり、鈴木英敬知事や津市の前葉泰幸市長ら百六十六人が出席した。出席者らは、国内に数台しかない最新式のリハビリ装置などを見学した。

式典で小野雄一郎理事長は「これを機に知名度、信頼度を高め、さらなる飛躍をしていきたい」とあいさつ。鈴木知事は「全国有数のリハビリ治療が受けられる施設。三重の地域医療の中核になる」と期待を込めた。

同大学は臨床研究も兼ね全国に先駆けてリハビリテーションに力を入れている。地上三階建て、敷地面積約一万一千平方メートルの先進リハビリテーション棟は、治療効率の高い先進的なロボット訓練を軸にしたリハビリテーションを実現するため新設した。



ゲームをしながらバランス感覚を鍛える装置＝津市大鳥町の七栗記念病院で



歩行練習ロボット＝津市大鳥町の七栗記念病院で

内覧会では、機器の使い方や効果の説明があり、出席者は機器を取り囲んで熱心に聞き入った。

歩行練習ロボットは、脳卒中などで体にまひのある患者の訓練用にトヨタ自動車と共同開発した。前と横に付いたカメラで歩く姿を確認するほか、足の重心を検出して適性な歩き方を提示する。通常の歩行練習に比べ、練習量や能力向上効果が増すという。

このほか、映像を使ってテニスやスキーマのゲームを楽しみながらバランス感覚を鍛える装置や、バーチャルリアリティを利用し、回数によって景色が変わる立ち上がりの訓練機などもあり、参加者は開発の経緯などを質問していた。

（須江政仁）